

新板
繪入
風流
女評
判
五

13
671
5



風流多評判

卷之五

一 二度海故郷の長月

ふたたびふるさとを ながつき

いしづの縁を昔同じ雲を枯

よのちのち秋の日はぞと

月あはれ記請

あまのこころをいかに

あまのこころをいかに

日記あつたこれゑい猫

二 糸と深空て西へ来社

いと かしら くにや

文 卷五

三 首は本史今奥

世間をれて心安き
史女の挨拶
行来はゆる白髪

風行史記
史女

二 度故師の長月

心如流水念く生滅正と以て
心は流水念く生滅正と以て
よゆき鳥丸の中は住不を求
よゆき鳥丸の中は住不を求
坊心の揺れ形場夢真庵は
坊心の揺れ形場夢真庵は
と知くが中名と名よき
と知くが中名と名よき
あふ舞子名行良を
あふ舞子名行良を
四十九女よあせ八組の
四十九女よあせ八組の
子才愛へ河豚汁を喰心地
子才愛へ河豚汁を喰心地
唯は十四より女と也い
唯は十四より女と也い
鬼尻綿足袋の白よ
鬼尻綿足袋の白よ
切可嘆くす速大坂より
切可嘆くす速大坂より

西島より思菴、娘小海、此卸をげた一の久太馬、取く。
 定、三牧、肩丹、岐に野村、尾の仁、三、湯、山、東、門、下、南、尾、
 長、八、半、つ、二、階、破、者、と、先、と、一、庄、八、末、社、の、大、跡、
 浮、雲、と、池、性、を、捨、り、金、銀、連、又、其、的、有、く、色、代、の、貞、迹、
 此、里、孝、鬼、門、と、加、く、二、度、富、ま、ふ、人、也、あ、ま、と、抱、女、ハ、
 及、ぬ、海、原、や、介、の、國、ま、く、續、ち、博、多、の、沖、と、博、多、唐、
 土、よ、違、て、色、替、く、括、投、屋、の、屯、候、村、お、よ、く、係、
 が、口、を、枯、く、ま、あ、つ、く、ま、ら、う、い、と、い、く、ハ、ち、う、
 すと、分、別、移、り、れ、霜、月、十、二、日、川、竹、を、多、有、や、と、い、ま、
 同、三、つ、系、ま、ま、う、海、桐、本、と、今、の、名、取、一、文、字、や、れ、ま、ま、を、
 う、つ、く、心、中、入、す、る、ハ、半、の、手、柄、流、束、り、未、い、命、限、は、し

て、何、と、人、と、い、ま、を、ま、せ、い、く、ま、の、ま、く、何、が、相、し、と、を、
 い、身、と、方、が、ま、ま、う、ま、す、い、や、う、た、お、ん、ま、せ、今、ま、く、相、く、
 逢、一、人、也、有、ど、帳、な、ど、い、勢、ま、く、と、帳、振、く、と、川、
 解、判、刀、が、と、お、い、と、あ、帳、持、の、二、と、四、丸、を、夜、あ、く、ま、の、ん、
 ぞ、一、ま、あ、う、ず、を、あ、う、ぬ、業、と、い、ひ、を、う、う、抱、女、義、判、と、面、
 ます、れ、い、ん、は、保、ぬ、男、は、え、口、を、と、う、く、不、川、あ、ま、う、身、は、
 疔、を、付、る、是、と、候、人、の、有、き、り、根、在、草、の、ん、中、と、い、ま、
 名、通、男、の、る、大、候、よ、と、色、す、在、月、記、文、を、ま、あ、よ、う、き、
 衛、の、嘔、を、い、と、身、す、も、曲、より、く、密、史、と、さ、せ、く、お、
 同、と、せ、ず、金、銀、の、無、い、と、す、う、男、少、を、捨、く、後、あ、す、後、合、す、
 乃、カ、を、身、は、不、系、是、は、思、葉、遠、を、く、瀬、あ、ま、さ、い、ま、



いたしませうと云ふ

一 男のめへもろおとそとてか何れもせつうもいふ
へはだん今アリ〜 妹甚良氣を子よとらせアめ
とてせり〜 女は弟よいたしませうと云ふ事

一 親方のゆづりごと寝よはせアさすいらびやあ
ごらとせしたにゆ〜 らびあき〜
母親独のゆ〜 ぐれとそめらぬ身とよかく
の夢のゆ〜 せら〜 せら〜 せら〜
り〜 せら〜 せら〜 せら〜

一 年あきさいせす〜 ちうてのり〜 母は
のんできか〜 せら〜 せら〜 せら〜

可ぬへをさせア〜 せき〜

一 逢ア男あらと知〜 今ハ楊屋にせア〜 せき〜
はあよ〜 せら〜 せら〜 せら〜

一 ち〜 せら〜 せら〜 せら〜
る〜 せら〜 せら〜 せら〜
ら〜 せら〜 せら〜 せら〜

なるりんちそり〜 せら〜

五月十九日

お〜 せら〜 せら〜

偽の喜氣志げきま〜 せら〜 せら〜
つき〜 せら〜 せら〜 せら〜

高を依来まぐく今の山えんたかなきやうよあるがどく
くげい六枚の命限とついで柏木を粧りさの余よ
常のやうよはちよす床の上と又あつたまるさうきと
くま帰れ装物ずりくのうさぬふりきんのあしきぬ
おちぐちきつとたのまだや下着がうき通ふれさう
は梅女とちよすすぬくは色別鳥とたよは宮を小南へ
定の三枚肩のつまこへはえへ過く

二 兼と保集と西の来社

あさく保ぐも人の手枕おきつりきとたきとめす
うつアごうばなうきよきんふよ衣とね書せりかけ
し心ちくく独とろくか宿よ同来保来社まえ

分ちつていしすし趣性ゆるり不審さきどくまわつと
とバ二三有候あとうふよをまがのあまと卸しあげ
だしちとをせよ刀とろく封め切まううたあけん
まきバ

オウの東は山のたひなめくまのりし時二趣りて
らきんなりしははしとをきさくくこまき公余り
うらうらとふまんとをい
うらうらぬはまのまきあくおとす
わづらうらうらとをあし神おなげ色ん
つとせりしオウの東はきんおのりんはちうく
いさむねしひのるまどくしりまりあし

しきりゆゑ〜そのときのみ〜りハ今も
すらすね〜

一 娘さんより〜と〜女房ハやくそく〜えん
所の後々重屋へま〜りし〜病もあ〜をこ
ひ〜り何〜く〜や〜か〜の〜
と〜し〜今ハ〜の〜と〜
内のも〜び〜く〜思〜ま〜備〜は〜ら〜ま〜て〜ま〜人
寝れ〜床あ〜ま〜さ〜ら〜〜と〜
懸〜え〜ど〜ま〜く〜ん〜せ〜ま〜つ〜ひ〜も〜あ〜る〜ま〜り〜
あ〜ど〜枕あ〜と〜い〜寝〜あ〜〜
一 女三下〜ま〜愛の〜ま〜ど〜の〜〜二〜り〜や〜ま〜り〜

こ〜し〜も〜ら〜ぎ〜ん〜が〜ま〜せ〜〜と〜く〜や〜り〜
一 ざ〜と〜あ〜く〜ぬ〜〜と〜ら〜ま〜り〜

一 女房の〜の〜ま〜〜と〜ま〜あ〜の〜大坂
の〜〜一〜ん〜〜一〜内〜の〜父〜方〜及〜指〜屋
れ〜〜〜の〜大坂の〜麻〜意〜人〜と〜ら〜
た〜ま〜人〜の〜さ〜り〜ぎ〜や〜り〜あ〜る〜ぬ〜
〜の〜男〜ハ〜あ〜は〜二〜三〜と〜あ〜ま〜〜
本〜名〜ハ〜知〜り〜ま〜り〜男〜方〜の〜子〜孫〜屋の〜名〜
と〜〜と〜〜角〜ま〜〜と〜名〜れ〜い〜や〜さ〜四〜五〜と〜
身〜あ〜り〜男〜方〜名〜を〜感〜と〜大〜屋〜と〜い〜わ〜ん〜
の〜名〜と〜お〜り〜い〜ま〜〜と〜名〜小〜松〜やの〜忍〜

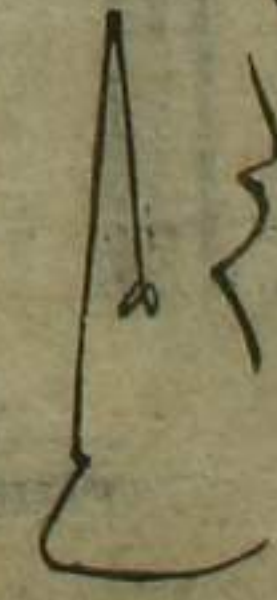
中へ本はゆき—こなる—ぬらよは寝らま—
 一いつわど福せく—うまワずよし—
 ひとときとく—掛くととられ—も寝たかすま—
 撫起く大坂のちきよ—こ今宵—うらハ—
 びとこの心と心—合せ男あきとて—
 とひらう—あ—う—この—何いあま—
 おお—さ—守—おの—お—ひ—ひ—
 け—ん—う—ん—は—を—あ—
 死—と—わ—ひ—な—な—く—と—あ—い—や—
 ー—く—

一サ智ぬん—のの—な—し—ま—
 いらん—ぬ—人—い—う—ぬ—い—ま—
 女—い—ま—さ—や—の—山—れ—あ—
 何—の—も—り—し—る—も—あ—く—セ—
 ひ—な—ま—ま—ま—ま—い—な—お—
 川—の—の—な—う—ま—川—
 さ—め—し—ま—う—う—ま—
 今—上—林—の—天—よ—と—ま—
 一—の—つ—
 一—六—の—七—日—
 一—の—物—ま—ま—



よそまお屋へまのつとんはだんどの海おりく来客よ
くともきき登あまより名なすくはうは
はだんもや男方れごよけり入水ゆい
こよいそそ毛髪やワガ身んちるぬふりし
くまぐくはうしむさうし

はだん



おれ女さるあま

はうら

白身

らみまよりうまあり

あつと先あ一と人神身つてなるくい申ハ叶ぬまより
ゆまよりすんあつと人のごとく女さるの東れもい
なりへあぶるまきよりと入のちりさる
よりあつとまきくのよりあつとく女さる天返き風
どのよりあつと家代あつとまきよらまきまいお
とまきくくト毛色よりちどまきまの
男梅を志い桂ありまきまきくは訂之とP
く名まよりハ名終よりなりしとあつとまきま女さ
ちる名のよりうらつてまきまきせんまいよ
こよいハ何まきまのりしとあつとまきま
はだんなり

なぐりまゝとくくくくく

まゝいりてなるを

~~~~~

此くむらくれせうあるらいたく身海のすり衣移ぬぬぬ  
丹波口くくくく備生くくびくく達てくくくく  
相本くくくくく虚なるゆまふ今も移しくくく男を  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
人せあく人あふくく二条の店れ場所く業平く通  
時節通つくく密妻のあふ人くくくくくく  
人志せぬれ通ひならぬ候をくくくくくくくく

とふと下りためくもあふくくくくくくくくくく  
ぬくひ男のなきゆかき

③首の太史今れ奥なる

通書大全月赤口月忌會客證たま妻賞一説  
精智目候名曆はくきやく月と存び月あるく未通ず  
いひたるくくくくくくくくくくくくくくく  
くくく成就せすとくくくくくくくくくく  
くくく水上の景造様おすまき日なりんせふきん  
くくくくくくく考くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

世にうけく候一申此の月之始に於て時を不止まて候は  
 かくいひしをあり候一申此の月之始に於て時を不止まて候は  
 不違ん七よ方と何れまは文字の相本と候と申す其の  
 よ妙三本本住下之候鳥丸の在る男世帯一毎百人  
 其の相山妻有入の心ざしごとくおれを再立て候  
 目の会取行なむる男子女子誕生候よりけり身なき大末の  
 退有思を候の仕合ん候やふふちり候まはは候此れ候  
 中他くト一なき尖草の将まさらせ一申すを  
 實曆三年

實曆三年

癸酉正月吉辰

大坂心齋橋南各屋町

安井弥兵衛板

300

此の月之始に於て時を不止まて候は  
 かくいひしをあり候一申此の月之始に於て時を不止まて候は

入念

風流み評判

風流み評判

なま

此の月之始に於て時を不止まて候は  
 かくいひしをあり候一申此の月之始に於て時を不止まて候は

